

入試年度	2025	入試方式	一般	課程	博士後期
研究科	発達教育学	専攻	教育学	領域(分野)	心理学
出題のねらい					
<p>入学者受入れの方針に記されたように、筆記試験では、「教育学や心理学に関する高度な専門的知識あるいは研究手法の有無について精査する」ことを目的とするが、特に外国語の筆記試験では以下の各点について評価を行うことを目的とする。</p> <p>まず、心理学で最も多く出版されている英語文献を読みこなす基本的な英語の語学力を有しているかどうかを評価する。そのため、この問題では英語論文から抜粋した英文を読み、要領よく要約することを求めている。これにより、ある程度の分量の英文を限られた時間で読み、概要を理解できる能力があるかを評価する。</p> <p>また、外国語の筆記試験では、英語力だけではなく、研究に必要な日本語の能力、論理的能力を評価することも目的とする。この問題では、要約の仕方を見ることで、これらの能力の有無を評価する。</p> <p>さらに、心理学的なものの方、考え方を備えているか、心理学の方法論について一定の理解をしているか、心理学の基本的な概念についての理解が十分であるか、などについても評価する。そのため、比較的専門性の高い研究論文の一部を要約させることで、これらの点について評価することを目指す。</p>					
解答・解答例または採点時の評価ポイント					
<p>上記の狙いに沿った評価を行う。具体的な評価のポイントは以下の通りである。</p> <p>①問題文全体を読んでいるか。研究では多くの文献を読みこなす必要があるため、それに対応できるスピードで英文が読めるかどうかを問う。</p> <p>②問題文全体の大意が伝わるような詳細さで要約ができているかどうかを問う。600～800字という基準が示されているので、おおよその範囲に収まる必要があるが、100字程度の不足、超過は減点としない。重要ではない修飾語句やつなぎの文を省き、各文の内容を反映させる程度の詳細さが望ましい。重要な文の欠落や、要約の長さに対して不適切な詳細を含むことは、減点の対象となる。</p> <p>③筋の通った文章になっているか、論文などに相応しい日本語が使われているか。語学力と同時に論理的能力、日本語の能力も評価する。問題文の論理的展開を押さえた文章になっているか、論文などの文章に相応しい日本語が使われているか、などについて、評価する。</p> <p>④問題文は、顔の知覚、認知における個人差の問題という専門的な内容のものであるが、受験生の専門領域がこれに近い場合には、テクニカルタームが適切な訳語に訳されているか、要約が専門的な概念や考え方を押さえたものになっているか、などについて評価をおこなう。受験生の専門領域がこれと離れている場合などには、これらについては厳密には問わないが、心理学の概念や方法論を意識して内容を捉えた上での要約や訳語の選択になっているかどうかについては、評価の対象となる。</p>					